

(別添3)

【うるま市】

校務 DX 計画

「GIGA スクール構想の下での校務の DX 化チェックリスト」34 項目において、本市の主な課題として、教職員が学校へ提出する書類はクラウドを通してではなく紙での提出が多いこと、業務で FAX の使用がまだ残っていること、保護者・外部とのやりとりで押印が必要な書類があること、校務における生成 AI の活用が進んでいないこと等があげられる。

今後、これらの課題解決を含めた以下の 5 つの内容について、取り組んでいく。

1 クラウド環境の活用によるペーパーレス化、デジタル化の推進

本市では、市立学校教職員に Google アカウントを付与しており、情報共有や連絡等にクラウドサービスを活用できる環境にある。教職員が作成する資料や書類等について、この環境を活用しペーパーレス化、デジタル化を推進する。

2 過度な FAX 使用や押印の見直し

過度な FAX 使用や押印については、クラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害するものと考えられるので、「学校等の FAX でのやり取りの慣行・学校現場に関する押印ルールの見直しについて（令和 6 年 8 月 9 日付け文部科学省事務連絡）」に基づき、業務において過度な FAX 使用や押印の必要性を整理し、電子決裁などの導入に向けて県とも連携し取り組む。

3 教員の働き方改革にもつながる生成 AI の活用

「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」に基づいた活用を周知するとともに文部科学省リーディング DX 生成 AI パイロット校での取り組みを参考に、教員の働き方改革にもつながる生成 AI の活用に取り組む。

4 学校から保護者へのお便り・配布物等のデジタル化

本市では現在、学校から保護者へのお便り・配布物等についてデジタル化を行っており、保護者は登録したスマートフォン等で連絡内容の確認を行うことが可能である。

従来の紙による連絡方法で課題だった保護者への確実な伝達についてデジタル化により改善が図られており、今後も引き続きお便り・配布物等のデジタル化に取り組む。

5 次世代の校務支援システムの導入に向けた検討

次世代の校務 DX 環境構築については「ゼロトラストの考え方に基づき、アクセス制御を前提としたネットワーク移行」が求められている。

本市では、システムの次回更新が令和 9 年度以降であり、次世代の校務 DX 環境の円滑な移行を目指し、校務系ネットワーク等の現状分析やセキュリティ対策、先進地の情報収集などに取り組み、望ましい校務環境の整備について検討を進める。